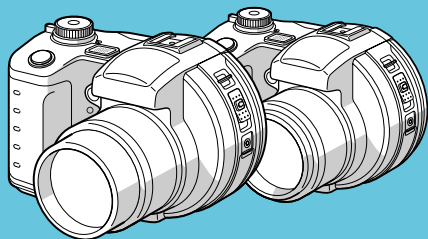
SONY

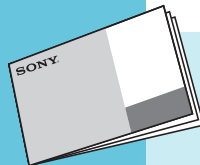
3-075-356-**03** (2)

取扱説明書

CDマビカ基本編

⚠**警告** 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「CDマビカ応用編／困ったときは」、「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

CD Mavica

MVC-CD400/CD250

別冊の
「CDマビカ応用編／困ったときは」もご覧ください。

こんなことができます

静止画を撮る

→ 22～32ページ

パソコンに取り込んで見る

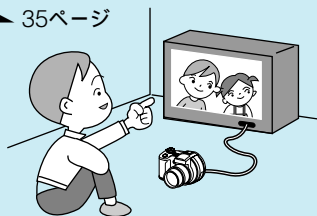
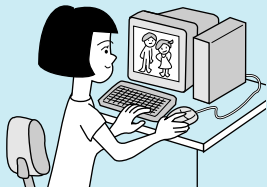
→ 45～63ページ

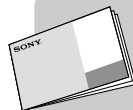
静止画を見る

→ 33～35ページ

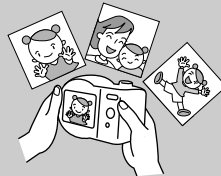
液晶画面で見る

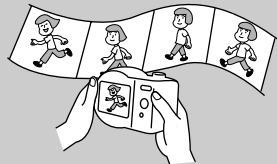
→ 33～34ページ

テレビで見る

→ 35ページ

Eメールに添付して送る

→ **別冊応用編** 24ページ

別冊の
「CDマビカ応用編／困ったときは」

いろいろな静止画の撮影／再生／編集

→ 7～36ページ

動画を撮る／見る

→ 37～40ページ

困ったときは

→ 46～59ページ

ディスクに対して必要な操作の流れ図

本機は8cm CD-R/CD-RW**に静止画や動画を記録できるデジタルスチルカメラです。**
撮影した画像をパソコンに取り込み、パソコンのソフトウェアを使って画像加工をしたり、Eメールに添付したりできます。ディスクドライブで直接画像を取り込む場合、ファイナライズ（41ページ）をおこなう必要があります。

目次

お使いになる前に

別冊の「CDマビカ応用編／困ったときは」について

「CDマビカ応用編」では、静止画の応用的な使いかたや、動画の撮影方法などを説明しています。

また、**「困ったときは」（別冊応用編 ➡ 46ページから）**では、本機を操作していて困ったときの代表的な対処方法を説明しています。

「CDマビカ応用編／困ったときは」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊応用編 ➡** ページ番号」のようにご案内しています。

本書のイラストについて

本書のイラストは特に説明が必要な所を除きMVC-CD400を使用しています。

- 本機は8cm CD-R/CD-RWをメディアとして使用するデジタルスチルカメラです。なお、本書では8cm CD-R/CD-RWを総称してディスクと表記しています。特に区別が必要な場合のみ、CD-RまたはCD-RWと表記します。
  使用できるディスクについては18ページを、ディスクの取り扱い上のご注意については**別冊応用編 ➡** 73ページをご覧ください。

- 確実な記録のためには、マビカディスク*の使用をおすすめします。
- データの書き込み中は、ACCESSランプが赤く点灯します。この間は本体に振動や衝撃を与えないでください。

* マビカディスクとは、Mavicaロゴの入った8cm CD-R/CD-RWのことです。

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

画像の互換性について

- 本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格“ Design rule for Camera File system ”に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影／修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

レーザー安全基準について

この装置は、レーザーに関する安全基準（IEC60825-1）クラス1適合のデジタルスチルカメラです。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本機に振動や衝撃を与えないでください！

誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、ディスクが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。

液晶画面、液晶ファインダー（搭載機種のみ）およびレンズについて

- 液晶画面や液晶ファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので安心してお使いください。
- 液晶画面や液晶ファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。

可動式レンズについて（MVC-CD400のみ）

本機は可動式レンズを採用しております。レンズ部をぶつけたり、無理な力をかけないようご注意ください。

湿気にご注意ください！

雨の日などに屋外で撮影するときは、本機を濡らさないようにご注意ください。結露が起きたときは、結露を取り除いてからご使用ください（**別冊応用編** ➡ 73ページ）。

カールツァイスレンズ搭載（MVC-CD400のみ）

本機はカールツァイスレンズを搭載し、繊細な映像表現を可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスとソニーで共同開発したMTF*測定システムを用いてその品質を管理され、カール ツァイスレンズとしての品質を維持しています。

* Modulation（モジュレーション） Transfer（トランスファー） Function（ファンクション）の略。
コントラストの再現性を表す指標です。被写体のある部分の光を、画像の対応する位置にどれだけ集められるかを表す数値。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピーをお取りください。

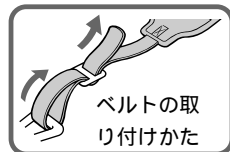
本書中の画像について

画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

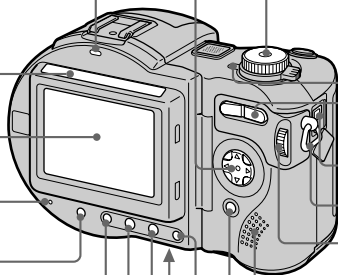
商標について

- MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- MacintoshおよびMac OS、QuickTimeは、Apple Computer, Inc.の登録商標または商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。
- "InfoLITHIUM（インフォリチウム）"はソニー株式会社の商標です。

各部のなまえ

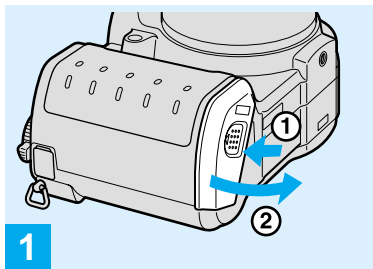
カッコ内の数字はページ数です。

- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚をお使いください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。
- オーディオ出力はモノラルになります。
- 撮影時、マイクには触れないでください。
- ACC端子には外部フラッシュなどをつなぎます。

*1 MVC-CD400

*2 MVC-CD250

- 外光採入窓に太陽光などが入ると、液晶画面がより明るくなります。

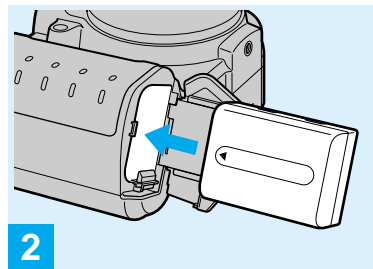
* MVC-CD250にはありません。

別冊の**「CDマビカ応用編／困ったときは」**に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊応用編** ➡ ページ番号」のようにご案内しています。

バッテリーを充電する

➡ **バッテリーカバーを開ける**

①の矢印の方向にスライドさせると、②の方向に開きます。

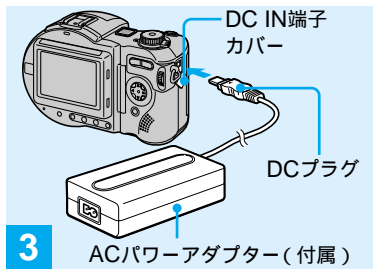
バッテリーを充電するときは、必ず本機の電源を切ってください。

- InfoLITHIUM M SERIES（“インフォリチウム”）に対応している機器とバッテリーの使用状況に関するデータ通信を行うことができるバッテリーです。本機はInfoLITHIUM M SERIES（“インフォリチウム”）対応です。
- 本機の電源には“インフォリチウム”バッテリー（Mシリーズ）NP-FM50（付属）を使用します。それ以外のバッテリーはお使いになれません（**別冊応用編** ➡ 74ページ）。

➡ **バッテリーを入れて、バッテリカバーを閉める**

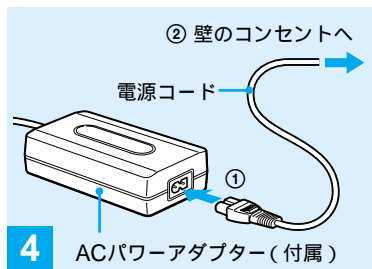
バッテリーの▲マークを奥にして入れます。
バッテリーが奥まで確実に入ったことを確かめてからカバーがカチッというまで閉めてください。

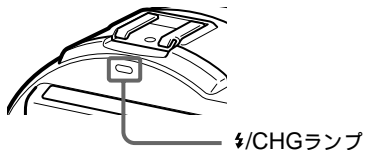
- バッテリーの先端でバッテリー取りはずしつまみを外側に押しながらバッテリーを入れると、簡単に入ります。

DC IN端子
カバー
DCプラグ
ACパワーアダプター（付属）

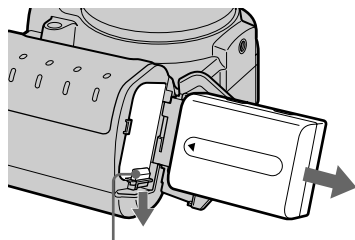
3

➡ DC IN端子カバーを開け、付属のACパワーアダプターのケーブルを本機のDC IN端子につなぐ

ケーブルの▲マークを上にしてつなぎます。

- ACパワーアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。
- ACパワーアダプターのDCプラグを汚れたまま使わないでください。汚れは乾いた綿棒などで拭き取ってください。汚れたままご使用になると正しく充電されないことがあります。

➡ 電源コードをACパワーアダプターと壁のコンセントにつなぐ

充電が始まり、ϟ/CHGランプが点灯します。

充電が終わるとϟ/CHGランプが消えます（満充電）。バッテリーの充電が終わったら、ACパワーアダプターを本機のDC IN端子から取りはずしてください。

- バッテリーは室温10℃～30℃で充電することをおすすめします。
- 約150分間で充電が終了します。チャージランプは150分間以上点灯することがありますが故障ではありません。
- バッテリー残量表示時間が充分なのに電源がすぐ切れるときは、満充電すると正しく表示されます。

バッテリーを取り出す

バッテリー取りはずしつまみ

バッテリーカバーを開け、バッテリー取りはずしつまみを矢印の方向に押して取り出してください。

• 取り出すときは、バッテリーが落下しないようにご注意ください。

バッテリー残量表示

撮影／再生できる残り時間を液晶画面に表示します。

使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。

充電時間について

使い切ったバッテリーを温度25°Cの環境でACパワーアダプターAC-L10Aで充電したときの時間です。

バッテリー	充電時間
NP-FM50（付属）	約150分間

バッテリーNP-FM50について

寒冷地での撮影では使用時間が短くなります。寒冷地でお使いになる場合は、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前に本機に取り付けてください。カイロをお使いの場合は、直接バッテリーに触れないようにご注意ください。

バッテリーの使用時間と撮影／再生可能枚数

次の表は撮影モードを通常撮影にし、充電したバッテリーで温度25°Cの環境で使用した場合の目安です。また、撮影枚数は付属のディスクを交換しながら撮影／再生したときの目安です。ご使用の状況によって記載より少ない数値になる場合があります。

静止画を撮影するとき

標準撮影*1)

画像サイズ	NP-FM50（付属）	
	撮影枚数	使用時間
2272×1704 (MVC-CD400)	約230枚	約115分
1600×1200 (MVC-CD250)	約280枚	約140分

*1) 以下の設定で撮影
- 画質設定をファインにする
- 30秒ごとに1回撮影
- 1回ごとにズームをW側、T側に交互にいっぱいにする
- 2回に1回、フラッシュを発光
- 10回に1度、電源を入／切する

連続撮影*2)

MVC-CD400

画像サイズ	NP-FM50（付属）	
	撮影枚数	使用時間
2272×1704	約1400枚	約110分
640×480	約1800枚	約110分

MVC-CD250

画像サイズ	NP-FM50（付属）	
	撮影枚数	使用時間
1600×1200	約2300枚	約120分
640×480	約2400枚	約120分

*2) 以下の設定で撮影
- 画質設定をスタンダードにする
- フラッシュモードを⚡（発光禁止）にする
- MVC-CD400：約4秒ごとに連続撮影
  MVC-CD250：約3秒ごとに連続撮影

静止画を再生*3)するとき

MVC-CD400

画像サイズ	NP-FM50（付属）	
	撮影枚数	使用時間
2272×1704	約1100枚	約170分
640×480	約1300枚	約170分

MVC-CD250

画像サイズ	NP-FM50（付属）	
	撮影枚数	使用時間
1600×1200	約1200枚	約180分
640×480	約1400枚	約180分

*3) 画面表示をオンにして、約5秒ごとにシングル画面を順番に再生

動画を撮影*4)するとき

MVC-CD400

	NP-FM50（付属）
	使用時間
連続撮影時	約150分

MVC-CD250

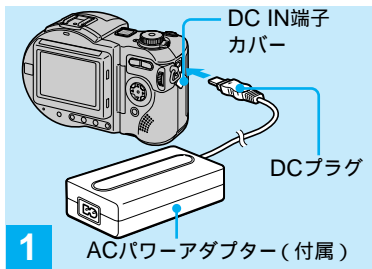
	NP-FM50（付属）
	使用時間
連続撮影時	約170分

*4) 画像サイズが160×112の場合の連続撮影

- 次のような場合は使用時間と撮影／再生枚数は、表示よりも少なくなります。
  - 周囲が低温のとき
  - フラッシュ使用時
  - 電源の入／切を繰り返したとき
  - LCDバックライトが「明」になっているとき
  - 使用回数を重ねたり、時間が経過してバッテリーの容量が低下したとき（**別冊応用編** ➡ 75ページ）

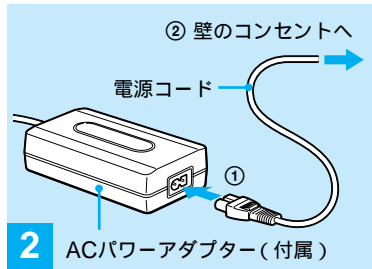
外部電源で使う

DC IN端子カバー

DCプラグ

1 ACパワーアダプター（付属）

➡ DC IN端子カバーを開け、付属のACパワーアダプターのケーブルを本機のDC IN端子につなぐ

ケーブルの▲マークを上にしてつなぎます。

- ACパワーアダプターはお手近なコンセントを使用してください。使用中、不具合が生じたときは、すぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- バッテリーは取りはずしておいてください。

➡ 電源コードをACパワーアダプターと壁のコンセントにつなぐ

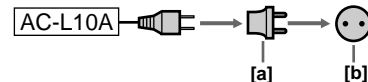
- 使い終わったら、ACパワーアダプターを本機のDC IN端子から取りはずしてください。
- 自動車電源をお使いのときは、別売りのDCアダプター／チャージャーでご使用いただけます。
- バッテリー使用時にDCプラグを抜き差しすると、電源が切れることがあります。

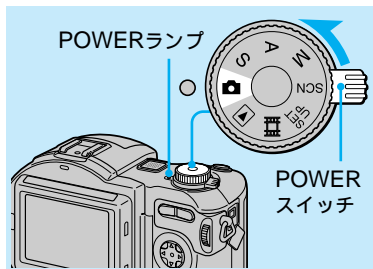
海外で使うときは

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	変換アダプター
主に北米など	不要です。
主にヨーロッパなど	

本機は海外でもお使いになれます。

- 付属のACパワーアダプターAC-L10Aは、全世界の電源（AC 100 V～240 V・50/60 Hz）でお使いいただけます。
- バッテリーの充電もできます。
- 下図のように、付属のACパワーアダプターを差し込む変換プラグアダプター**[a]**が必要になる場合があります。

- 変換プラグアダプター／電源コンセント**[b]**の形状は旅行先の国や地域によって異なります。あらかじめ、旅行代理店などでおたずねの上、ご用意ください。
- 電子式変圧機（トラベル・コンバーター）はご使用にならないでください。故障の原因となります。

電源を入れる／切る

➡ **POWERスイッチを矢印の方向にずらして、電源を入れる**

POWERランプが緑色に点灯し、電源が入ります。初めて電源を入れたときは、時計設定画面が表示されます（16ページ）。

電源を切る

POWERスイッチを再び矢印の方向にずらすと、POWERランプが消え、電源が切れます。

- モードダイヤルが「📷」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」のいずれかになっているときは、電源を入れると、レンズ部が動きます（MVC-CD400のみ）。レンズ部に触れないようにご注意ください。

オートパワーオフ機能

バッテリーを使って、撮影、再生またはセットアップを行っているとき、本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。

ただし、バッテリー使用中でも、下記の場合はオートパワーオフ機能は働きません。

- 動画再生時
- USB端子、またはA/V OUT (MONO)端子にプラグが接続されているとき

なお、スライドショーを行っているときは、バッテリーまたはACパワーアダプターのどちらを使っていても、約20分で自動的に電源が切れます。

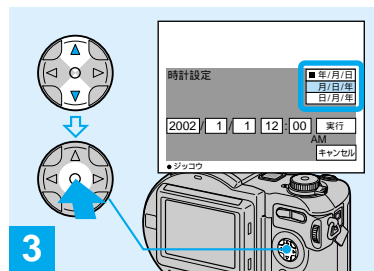
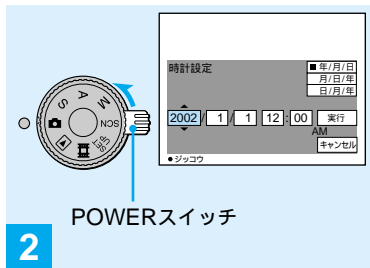
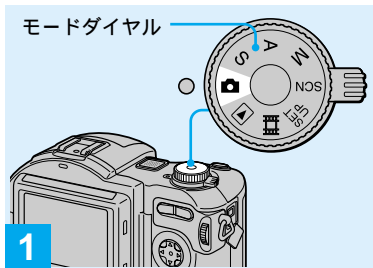
日付／時刻を合わせる

→ **モードダイヤルを「📷」にする**

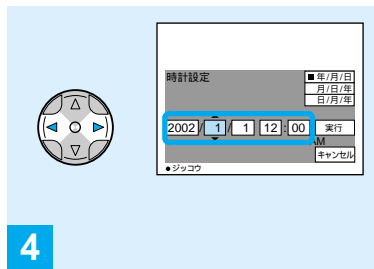
→ **POWERスイッチを矢印の方向にずらして、電源を入れる**

POWERランプが緑色に点灯し、時計設定画面が表示されます。

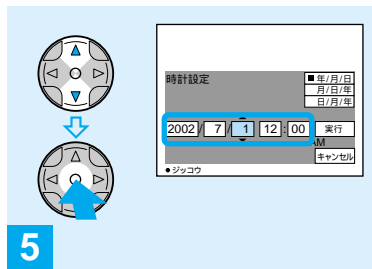
→ **コントロールボタンの▲/▼で年月日の表示順を選び、中央の●を押す**

表示は、［年/月/日］、［月/日/年］、［日/月/年］の中から選びます。

- モードダイヤルを「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」、「▶」、「🎞」の位置にしても操作できます。
- 一度設定した日付、時刻を合わせ直すときは、モードダイヤルを「SET UP」に合わせ、🧰（設定1）の［時計設定］を選んでから（**別冊応用編** ➡ 70ページ）、手順**3**から行ってください。

* MVC-CD400のみ

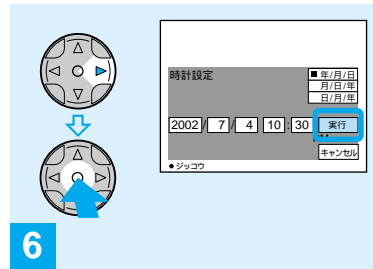
- 時計の設定を記憶しておくための充電式ボタン電池の残量が少なくなると（**別冊応用編** ➡ 73ページ）、自動的に時計設定画面が表示されます。このときは手順**3**以降を行って日付、時刻を設定し直してください。

4

➡ コントロールボタンの◀/▶で設定する年、月、日、時、分の項目を選ぶ

設定する項目の上下に▲/▼が表示されます。

5

➡ コントロールボタンの▲/▼で数値を設定して、中央の●を押す

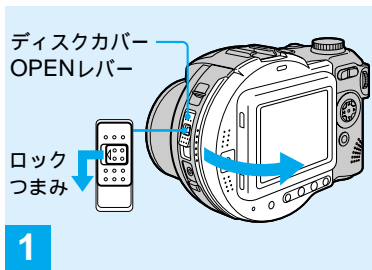
数値が確定され、次の項目に移ります。上記の手順を繰り返して、すべての項目を設定してください。

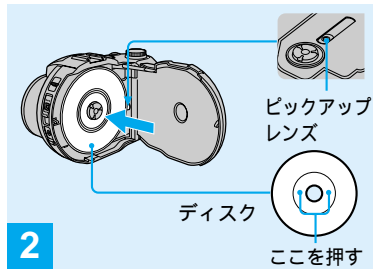
- 手順3で［日/月/年］を選んだときは、24時間表示になります。

6

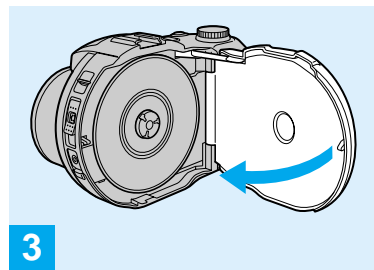
➡ コントロールボタンの▶で［実行］を選び、中央の●を押す

日付・時刻が設定され、時計が動き始めます。

- 中止するときは、コントロールボタンで［キャンセル］を選び、中央の●を押します。

ディスクを入れる／取り出す

➡ ディスクカバーを開ける

ロックつまみを左側にずらしたまま、ディスクカバーOPENレバーを下にずらします。

➡ ディスクを入れる

ディスクの印刷面を上にして、ディスクの中心をディスクがロックされるまで（「カチッ」と音がするまで）押し込みます。

➡ ディスクカバーを閉める

ディスクを取り出すときは
ディスクカバーを開け、ディスクの回転が完全に止まっていることを確認してから取り出してください。

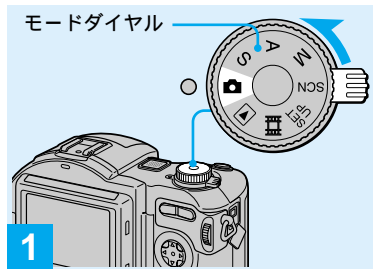
- 本機で使えるディスクはのロゴが入った8cm CD-R/CD-RWのみです。

- ディスク装着時に無理な力を加えないでください。
- ピックアップレンズに触れないように注意してください。

- ACCESS**ランプが点灯しているときは、画像の記録中、読み出し中です。このとき、絶対にディスクカバーを開けたり、電源を切ったりしないでください。画像データが壊れたり、ディスクが使えなくなることがあります。**
- ディスクにデータを書き込んでいるときはディスクカバーOPENレバーがロックされます。
- ディスクの状態によってはディスクを交換した直後に「データ修復中」と表示され、撮影可能になるまで約10分かかることがあります。

ディスクをイニシャライズする

イニシャライズについて

本機でディスクに画像データを記録できるようにする操作がイニシャライズです。
画像をディスクドライブで読めるようにする操作（ファイナライズ）（41ページ）を本機で行った場合は、自動的にイニシャライズも行われるので、引き続き画像の追加書き込みができます。
ファイナライズする以前に記録した画像ファイルはそのまま残ります。

1 新しいディスクを入れ、モードダイヤルを「📷」にしてから、電源を入れる

「イニシャライズ　安定した所に置いて下さい」と表示されます。

2 コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の●を押す

イニシャライズが始まります。実行中は本機に振動を与えないでください。

中止するには

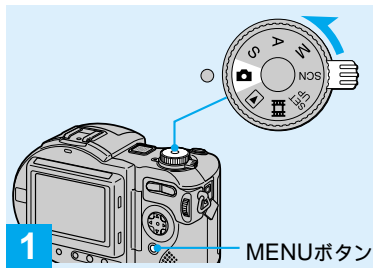
コントロールボタンの▼で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

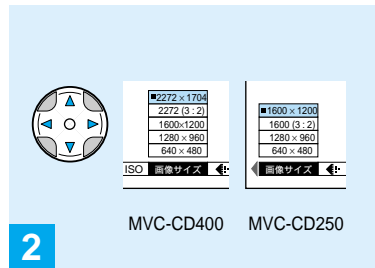
- モードダイヤルを「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」、「🎞」の位置にしても操作できます。

* MVC-CD400のみ

静止画の画像サイズ／画質を決める

一度中止した後にイニシャライズするには
ディスクカバーを開閉します。またはモードダイヤルを「📷」、「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」、「🎞」のいずれかにして、コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の●を押してください。

* MVC-CD400のみ

➡ モードダイヤルを「📷」にしてから、電源を入れ、MENUボタンを押す

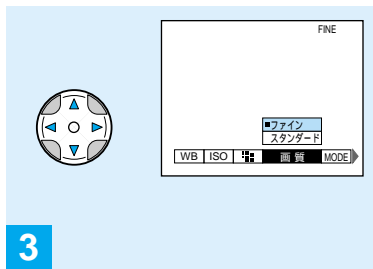
メニューが表示されます。

➡ コントロールボタンの◀/▶で［▦］（画像サイズ）を選び、▲/▼で希望の画像サイズを選ぶ

画像サイズが確定します。

- SET UPの［💿］（ディスクツール）を選んでイニシャライズを行うこともできます（**別冊応用編** ➡ 69ページ）。

- モードダイヤルを「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」の位置にしても操作できます。
- MVC-CD250では、メニューに［☒］（EV）、［F］（フォーカス）、［●］（スポット測光）が表示されます（**別冊応用編** ➡ 4ページ）。

* MVC-CD400のみ

3

➡ コントロールボタンの◀/▶で[ ]（画質）を選び、▲/▼で希望の画質を選ぶ

画質が確定します。
設定が終わったら、MENUボタンを押してください。画面からメニューが消えます。

- 画質は［ファイン］（高画質）と［スタンダード］（標準）の2種類を選ぶことができます。
- ここで選んだ画像サイズと画質の設定は、電源を切った後も保持されます。

画像サイズ／画質について

撮影目的に合わせて、画像のサイズ（画素数）と画質（圧縮率）を選ぶことができます。画像サイズを大きく、画質を高くするほど、画像はきれいになりますが、データ容量が大きくなり、ディスクに記録できる枚数は少なくなります。
目的に合った画像サイズと画質をお選びください。
撮影した画像のサイズをあとで変えることもできます（リサイズ機能、**別冊応用編** ➡ 34ページ）。

画像サイズは下の表から選ぶことができます。

画像サイズ	用途例
2272×1704 (MVC-CD400のみ)	高精細プリント
2272 (3:2) (MVC-CD400のみ)	3:2プリント*
1600×1200	A4サイズの印刷
1600 (3:2) (MVC-CD250のみ)	3:2プリント*
1280×960	ハガキサイズの印刷
640×480	Eメール添付

* プリント紙の横縦比3：2に合うように、画像を3：2で撮影します。

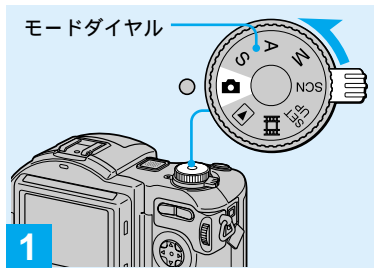
ディスク1枚に記録できる枚数**は

（単位：枚数）

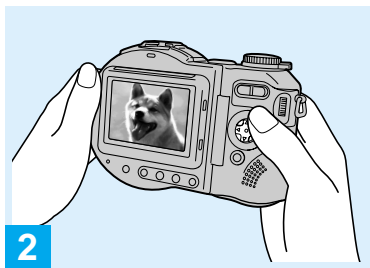
画像サイズ ＼ 画質	ファイン	スタンダード
2272×1704 (MVC-CD400のみ)	66	119
2272 (3:2) (MVC-CD400のみ)	66	119
1600×1200	131	235
1600 (3:2) (MVC-CD250のみ)	131	235
1280×960	195	347
640×480	658	1291

** 撮影モードが［通常撮影］の場合
その他のモードの記録枚数は**別冊応用編** ➡ 61〜62ページをご覧ください。

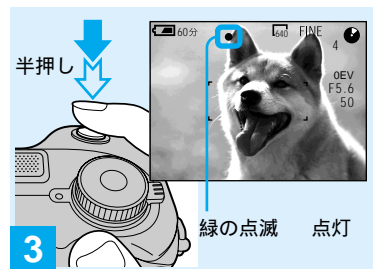
- 画像サイズはパソコンで見るときのサイズです。本機の液晶画面で見るときはどの画像サイズでも同じ大きさに見えます。
- 記録枚数は、撮影状況によって数値と異なる場合があります。
- 画像サイズの数値（例：2272×1704）は、画素数を表しています。

簡単に撮る（オート撮影）

➡ モードダイヤルを「📷」にしてから、電源を入れる

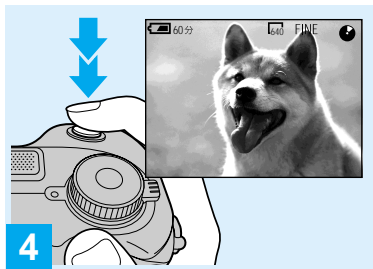
レンズキャップをはずしてください。

- 静止画をJPEG形式で記録します。
- 本機の電源オン時やズーム使用時（25ページ）など、レンズ部が動いているときは、レンズ部に触れないでください（MVC-CD400のみ）。
- 「📷」では露出とピントが自動で調整されます。

➡ 両手でカメラを構え、被写体をフレーム中央部におさめる

電源を入れるとレンズ部が動きます（MVC-CD400のみ）。

- 自動ピント合わせ（AF＝オートフォーカス）のモードは、MVC-CD400ではマルチポイントAFと測距枠選択モード、MVC-CD250ではマルチポイントAFと中央重点AFが選択できます（**別冊応用編** ➡ 9ページ）。

➡ シャッターを半押しする

「ピピッ」と音がします。液晶画面内のAE/AFロック表示が点滅から点灯に変わると、撮影可能です。撮影状況の光量が足りないと判断した場合、自動的にフラッシュが持ち上がり発光します。

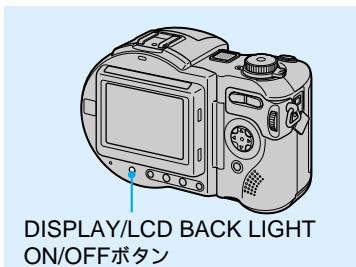
- シャッターを離せば、いつでも撮影を中止できます。
- ピント合わせに必要な被写体までの距離は、50cmです。これより近くの被写体を撮影するときは近接撮影してください（25ページ）。
- 液晶画面内に出る枠はピント合わせをおこなう範囲を表します（AF測距枠、**別冊応用編** ➡ 11ページ）。

➡ 半押しのまま、シャッターをさらに押し込む

「カシャ」と音がして、撮影が完了し静止画がディスクに記録されます。「記録中」の文字が消えると、次の撮影ができます。

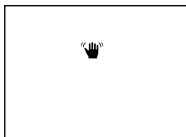
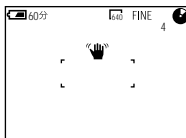
- バッテリーを使って撮影しているとき、本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます（15ページ）。
- SET UPで［書き込み確認］を［入］に設定すると、実際にディスクに記録するかどうかを選ぶことができます（**別冊応用編** ➡ 26ページ）。
- ディスクに書き込み中はACCESSランプが点灯します。点灯中は、本機に振動や強い衝撃を絶対に与えないでください。また、電源を切ったり、ディスクやバッテリーを取り出したり、ディスクカバーを開けたりしないでください。画像データが壊れたり、ディスクが使えなくなることがあります。
- レンズやフラッシュ発光部に指がかからないようにご注意ください。

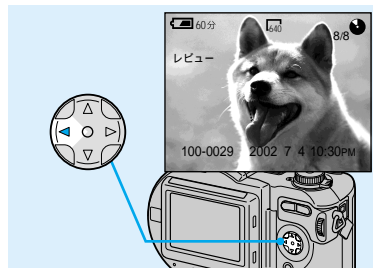
ピント合わせについて

ピントを合わせにくい被写体を撮影しようとしたときは、点滅していたAE/AFロック表示が遅い点滅に変わります。
オートフォーカスは、下記の条件では、ピントが合わせにくいことがあります。構図を変えるなどしてもう一度ピントを合わせてみてください。

- 被写体が遠くて暗い
- 被写体と背景のコントラストが弱い
- ガラス越しの被写体
- 高速で移動する被写体
- 鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
- 点滅する被写体

画面上の表示は

バッテリーの消耗をおさえたいときや、液晶画面で画像を確認しづらいときの撮影に便利です。
DISPLAY/LCD BACK LIGHT ON/OFFボタンを押すたびに、表示が次の順で切り換わります。

画面表示オフ
（警告表示とジョグダイヤルを使って操作可能な手動調節の数値（MVC-CD400のみ）のみ表示）

↓
バックライトオフ
↓
画面表示オン
（表示可能なアイコンをすべて表示）

- 表示項目について詳しくは、**別冊応用編** ➡ 79ページをご覧ください。
- 画面上の表示は記録されません。

最後に撮影した画像を確かめる—クイックレビュー

➡ コントロールボタンの◀（⊜）を押す

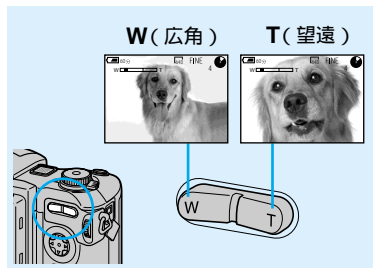
通常の撮影モードに戻るには、シャッターを軽く押すか、もう一度コントロールボタンの◀（⊜）を押します。

表示された画像を削除する

1 MENUボタンを押して、メニューを表示する。

2 コントロールボタンの▶で［削除］を選んで、中央の●を押す。

3 コントロールボタンの▲で［実行］を選んで、中央の●を押す。
画像が削除されます。

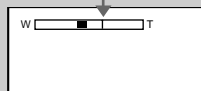
ズームで撮る

➡ **ズームボタンで希望の大きさにし、撮影する**

ピントが合うための最短距離
W（広角）のとき：
50cm（MVC-CD400）
50cm（MVC-CD250）
T（望遠）のとき：
50cm（MVC-CD400）
80cm（MVC-CD250）

- ズーム時はレンズ部が動きます（MVC-CD400のみ）。レンズ部に触れないようにご注意ください。
- ズームは動画撮影（**別冊応用編** ➡ 37ページ）中には使えません（MVC-CD400のみ）。

デジタルズーム

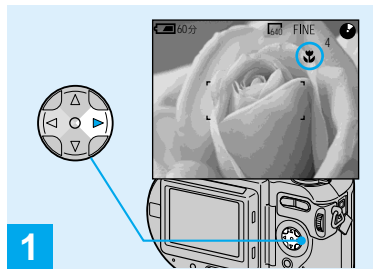
3倍を越えるズームは、画像をデジタル処理して最大6倍まで拡大するデジタルズームになります。画質は劣化しますので、この機能が不要の場合はSET UPの［デジタルズーム］を［切］にしてください（**別冊応用編** ➡ 69ページ）。

このラインよりT側はデジタルズーム

- デジタルズーム時はオートフォーカスの枠は表示されません。
- デジタルズームは動画撮影中には使えません。

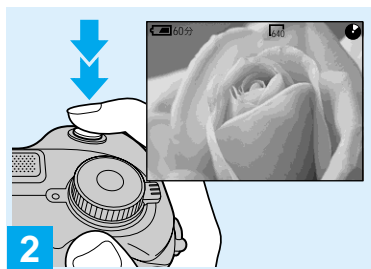
近接撮影—マクロ撮影

花や昆虫など、小さな被写体に接近して撮りたいときは、近接（マクロ）撮影をします。下記の距離まで被写体に接近して撮影することができます。

ズームがW側いっぱいのとき：
レンズ先端から約4cm（MVC-CD400）
レンズ先端から約3cm（MVC-CD250）

ズームがT側いっぱいのとき：
レンズ先端から約20cm（MVC-CD400）
レンズ先端から約80cm（MVC-CD250）

➡ モードダイヤルを「📷」にして、コントロールボタンの▶（🌷）を押す

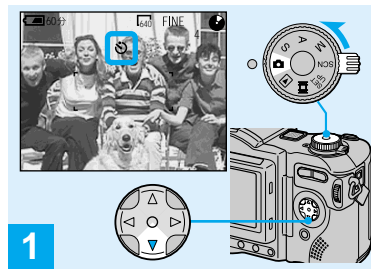
液晶画面に🌷（マクロ）が表示されます。

- モードダイヤルを「S」*、「A」*、「M」*、「SCN（風景モード以外）」（30ページ）、「🎞」の位置にしても操作できます。
- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。

* MVC-CD400のみ

➡ 被写体をフレームにおさめ、撮影する

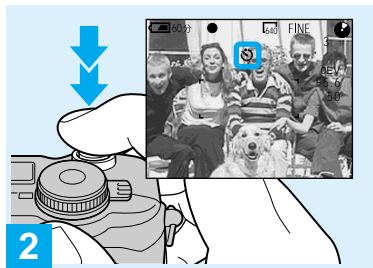
通常撮影に戻すには

もう一度コントロールボタンの▶（🌷）を押してください。液晶画面から🌷が消えます。

セルフタイマーで撮る

➡ モードダイヤルを「📷」にして、コントロールボタンの▼（⏲）を押す

液晶画面に⏲（セルフタイマー）が表示されます。

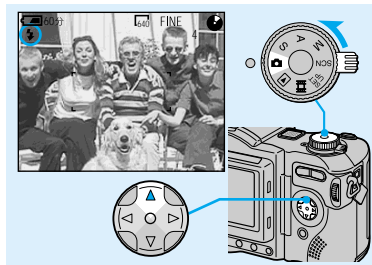
- モードダイヤルを「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」、「🎞」の位置にしても操作できます。
- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。

* MVC-CD400のみ

フラッシュモードを選ぶ

→ 被写体をフレーム中央部におさめ、シャッターを深く押し込む

セルフタイマーランプ（8ページ）が点滅し、「ピッピッピ」とビープ音が鳴ります。約10秒後に撮影されます。

セルフタイマーを途中で止めるには
もう一度コントロールボタンの▼（ὕ1）を押してください。

- カメラの前に立ってシャッターを押すと、ピントや明るさが正しく設定されないことがあります。

→ モードダイヤルを「📷」にして、コントロールボタンの▲（⚡）を繰り返し押し、フラッシュモードを選ぶ

ボタンを押すたびに、フラッシュモードは下記のように変わります。

表示なし（オート）：撮影状況の光量が足りないと判断した場合、自動的に発光します。（お買い上げ時の設定）

↓

⚡（強制発光）：周囲の明るさに関係なく発光します。

↓

⊘（発光禁止）：発光しません。

- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。
- フラッシュの発光量はメニューの［フラッシュレベル］で変えることができます（**別冊応用編** ➞ 64ページ）。

- フラッシュモードがオート（表示なし）または⚡（強制発光）のとき、暗い場所で液晶画面を見ると画像にノイズが目立つことがありますが、撮影される画像には影響ありません。

- フラッシュを充電している間は、⚡/CHGランプが点滅します。充電が完了すると消灯します。

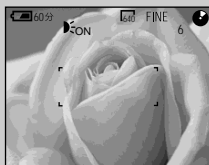
- フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを半押しすると、⚡/CHGランプが点灯します。
- コンバージョンレンズ（別売り）をつけていると、フラッシュの光をさえぎり、レンズの影が映る（ケラレる）ことがあります。
- 外部フラッシュには専用のHVL-F1000とホットシュー対応の市販品の2種類があります（**別冊応用編** ➞ 27ページ）。
- 外部フラッシュと本機の内蔵フラッシュは同時には発光しません。
- 市販の外部フラッシュをご使用になる場合は、SET UPの［ホットシュー］を「入」に設定してください（MVC-CD400のみ）。

人物の目が赤くなるのを軽減するには

撮影前にフラッシュが予備発光し、目が赤く写るのを軽減します。
SET UPの［赤目軽減］を［入］にしてください（**別冊応用編** → 70ページ）。液晶画面に◑が表示されます。

- 赤目軽減の効果には個人差があります。また被写体までの距離や予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が現れにくいことがあります。

補助光を使って撮影する

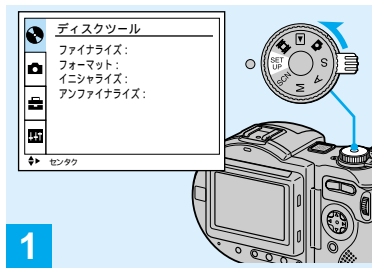
暗い場所でフォーカスを自動的に合わせるための補助光の機能があります。
SET UPの［ホログラフィックAF］*1 または［AFイルミネーター］*2（**別冊応用編** → 70ページ）を［オート］にしてください。撮影時にONが表示され、シャッターを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間だけ自動的に発光します。

*1 MVC-CD400
*2 MVC-CD250

- 補助光を発光しても、充分な光が被写体に届かない場合（推奨距離はMVC-CD400では約0.5m～4.0mまで、MVC-CD250では約0.3m～2.3mまで）やコントラストが弱い被写体を撮影する場合、フォーカスは合いません。
- 補助光の光が画像の中心からずれる場合がありますが、光が被写体に届いていれば、フォーカスは合います。
- フォーカスを手動で調整しているときは発光しません。
- SET UPの［コンバージョンレンズ］（MVC-CD400のみ）（**別冊応用編** → 70ページ）が［入］の場合は発光しません。
- ホログラフィックAF（MVC-CD400）の発光部が汚れていると、ホログラフィックAFの光がぼやけてフォーカスが合いにくくなることがあります。このような場合は、ホログラフィックAF発光部を乾いた布などで拭いてください。
- 補助光は明るい光です。安全には問題はありませんが、至近距離で直接人の目に当たらないようにお使いください。
- 補助光の発光部を手で覆わないようにご注意ください。

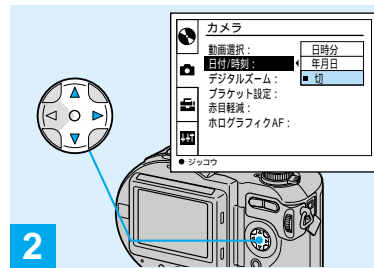
日付や時刻を入れて撮る

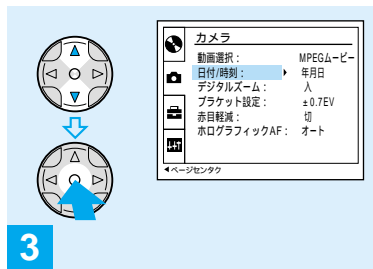
ホログラフィックAFとは（MVC-CD400のみ）

「ホログラフィックAF」はレーザーホログラムを応用し、暗闇での静止画撮影を可能にした新しいAF補助光システムです。このシステムはレーザー出力クラス1*を満たしており、従来の高輝度LEDや高輝度ランプを用いたシステムより、目にやさしく、安全性が高いという特長があります。

* JIS規格(JP)、IEC規格(EU)、FDA規格(US)全ての時間基準30000秒のクラス1を満たしています。これはレーザー光を直接、またはレンズなどで集光して30000秒間のぞき込んでも安全なレーザー製品を意味しています。

➡ モードダイヤルを「SET UP」にする

SET UP画面が表示されます。

- 日付や時刻を入れて撮影すると、あとで消去できませんのでご注意ください。
- 撮影時は実際の日付や時刻は表示されず、液晶画面左上にDATEが表示されます。実際の日付や時刻は、再生時に表示されます。

➡ コントロールボタンの▲/▼で［📷］（カメラ）を選び▶を押し、▲/▼で［日付／時刻］を選び、▶を押す

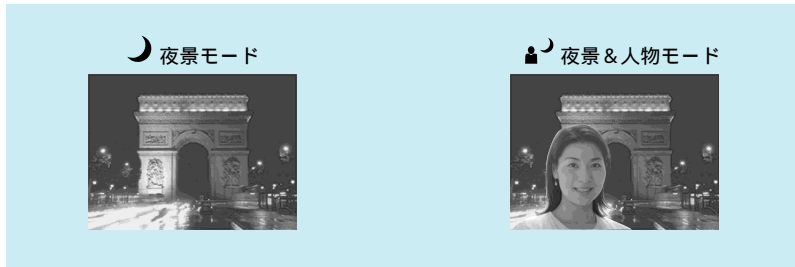
- ［年月日］を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」（16ページ）で選んだ表示順の年月日が挿入されます。
- MVC-CD250では、［ホログラフィックAF］の項目は［AFイルミネーター］と表示され、［ブラケット設定］（**別冊応用編** ➡ 70ページ）の項目は表示されません。

➡ コントロールボタンの▲/▼で挿入するデータの種類を選び、中央の●を押す

日時分：画像に撮影日時分を入れる
年月日：画像に撮影年月日を入れる
切：画像に日付・時刻は記録されない

設定が終わったら、モードダイヤルを「📷」にして、撮影してください。

- モードダイヤルを「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」の位置にしても撮影できます。
- ここで選んだ設定は、電源を切った後も保持されます。

* MVC-CD400のみ

場面に合わせて撮る—シーンセレクション

夜景＆人物モード

夜景や夜景と人物、風景を撮影するときは、下記のモードを使用して効果を高めることもできます。

夜景モード

暗い雰囲気を損なわずに、夜景を撮影することができます。シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

- フラッシュは使用できません。

夜景＆人物モード

夜景と手前の人物を同時に撮影するときに使います。シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

- 夜景の雰囲気を損なわずに、手前の人物を際だたせた画像を撮影することができます。
- フラッシュが強制発光します。

風景モード

ポートレートモード

風景モード

遠景にピントを合わせることで、遠くの風景などを撮影しやすくします。

- マクロ撮影はできません。
- フラッシュは自動発光しません。

ポートレートモード（MVC-CD400のみ）

背景をぼかし、被写体の人物を際だたせた画像を撮影することができます。

夜景モードおよび夜景＆人物モードで、シャッタースピードがMVC-CD400では1/25秒またはそれよりも遅い設定、MVC-CD250では1/2秒またはそれよりも遅い設定になるとシャッタースピード表示の前に「NR」が表示され、自動的にNRスローシャッターモードに入ります。

NRスローシャッターモードとは、撮影した画像からノイズを除去し、きれいな画像を得る機能です。手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

シャッターを深く押し込む。

↓

「撮影中」と表示される。

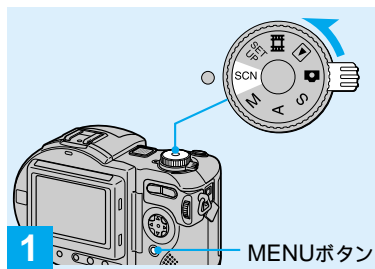
このとき画面は黒くなります。

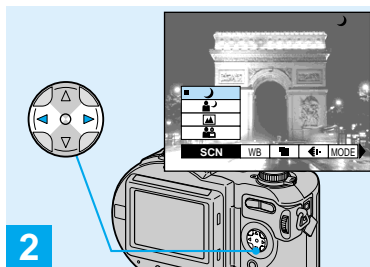
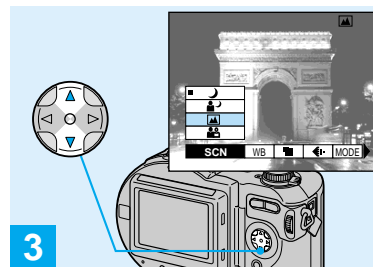
↓

次に「処理中」と表示される。

↓

「記録中」と表示され、画像が記録されます。

静止画を撮る

➡ モードダイヤルを「SCN」にして、MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

➡ コントロールボタンの◀/▶で［SCN］を選ぶ

➡ コントロールボタンの▲/▼で希望のモードを選ぶ

モードが確定します。
設定が終わったら、MENUボタンを押してください。画面からメニューが消えます。

- MVC-CD250では、メニューに［±］（EV）、［F］（フォーカス）、［●］（スポット測光）が表示されます（**別冊応用編** ➡ 4ページ）。

- シーンセレクションを解除するときは、モードダイヤルを「SCN」以外にしてください。
- ここで選んだ設定は、電源を切った後も保持されます。

本機の液晶画面で見る

シングル（1枚表示）画面

インデックス（9枚表示）画面

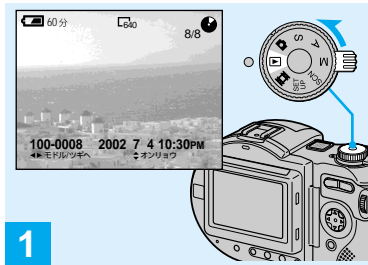
インデックス（3枚表示）画面

撮影した画像を本機の液晶画面ですぐに見ることができます。表示方法は下記の3種類から選ぶことができます。

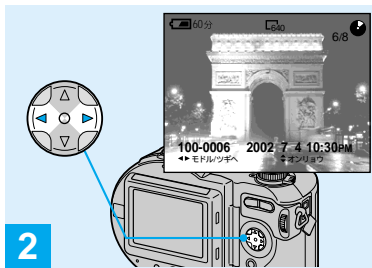
シングル（1枚表示）画面
1枚の画像を画面いっぱいで見ることができます。

インデックス（9枚表示）画面
9枚の画像を同時に見ることができます。
インデックス（3枚表示）画面
3枚の画像を同時に見ることができます。画像情報も表示できます。

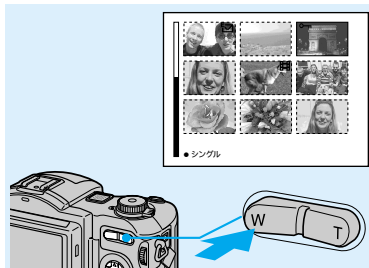
• 表示項目について詳しくは、**別冊応用編** ➡ 81ページをご覧ください。
• 動画の再生については、**別冊応用編**➡ 38ページをご覧ください。

シングル画面で見る

➡ モードダイヤルを「▶」にして、電源を入れる

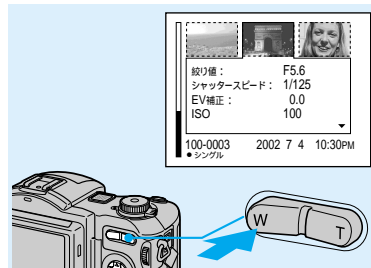
最後に撮影した画像が表示されます。

静止画を見る

➡ コントロールボタンの◀/▶で静止画を選ぶ

◀：前の画像が表示されます。
▶：次の画像が表示されます。

インデックス（9枚/3枚表示）画面で見る

➡ ズームWボタンを1回押す

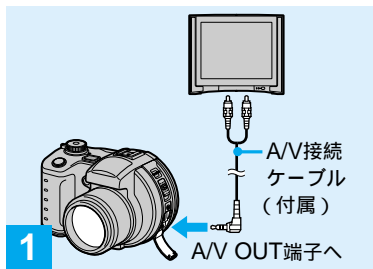
インデックス（9枚表示）画面に切り換わります。

次（前）のインデックス画面を表示するには
コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押して、黄色い枠を上下左右に動かしてください。

➡ ズームWボタンをもう1回押す

インデックス（3枚表示）画面に切り換わります。
コントロールボタンの▲/▼を押すと残りの画像情報が表示されます。

次（前）のインデックス画面を表示するには
コントロールボタンの◀/▶を押してください。

シングル画面に戻るには
ズームTボタンを繰り返し押すか、コントロールボタンの中央の●を押してください。

テレビで見る

➡ **A/V接続ケーブルで本機のA/V OUT（MONO）端子と、テレビの音声／映像入力端子を接続する**

テレビの音声入力端子がステレオタイプのときはA/V接続ケーブルの音声プラグ（黒）をL（左）に接続してください。

➡ **テレビの電源を入れ、テレビ／ビデオ切り換えスイッチを「ビデオ」にする**

➡ **モードダイヤルを「▶」にして、本機の電源を入れる**

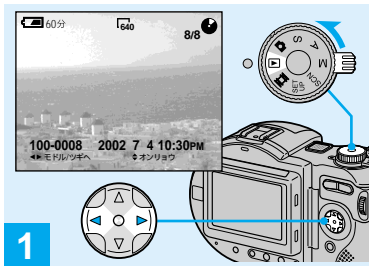
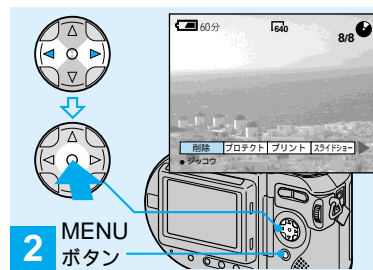
コントロールボタンの◀/▶で画像を選びます。

静止画を見る

- 本機とテレビの電源を切ってからA/V接続ケーブルをつないでください。
- お使いのテレビによって、スイッチの名称や位置は異なります。
- 海外でお使いの時は、ビデオ出力信号の切り替えが必要な場合もあります（**別冊応用編➡** 71ページ）。

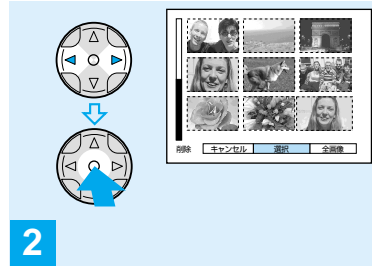
静止画を削除する

- CD-Rでは画像を消してもディスク残量は増えません。
- CD-RWではが液晶画面に出ている場合に限り、その時点で最新の画像を消すとディスク残量は元に戻ります。画像を加工したり、ディスクカバーを開閉したりするとは消えます。
- ディスク残量が少ない場合、削除できないことがあります。
- 削除したい画像のファイル名と下4桁が同じファイル名がディスク内に存在すると、同時に削除されます。

シングル（1枚表示）画面で削除する

➡ モードダイヤルを「▶」にし、電源を入れてから、コントロールボタンの◀/▶で削除したい画像を表示する

➡ MENUボタンを押し、コントロールボタンの◀/▶で［削除］を選び、中央の●を押す

この時点ではまだ削除されていません。

インデックス（9枚表示）画面で削除する

➡ インデックス（9枚表示）画面（34ページ）で、MENUボタンを押してから、コントロールボタンの◀/▶で［削除］を選び、中央の●を押す

➡ コントロールボタンの◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す

すべての画像を削除するには

コントロールボタンの◀/▶で［全画像］を選び、中央の●を押します。さらに［実行］を選び中央の●を押してください。
削除を中止するときは［終了］を選び、中央の●を押してください。

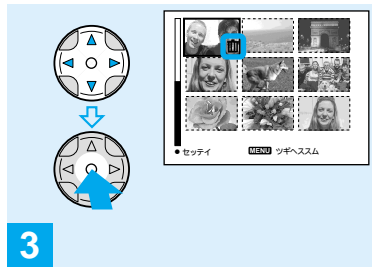
3

➡ コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の●を押す

「アクセス中」と表示されます。表示が消えると、画像が削除されます。

削除を中止するには

コントロールボタンの▼で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

インデックス（9枚表示）画面で削除する（つづき）

3

➡ **削除したい画像をコントロールボタンの▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す**

選んだ画像に🗑マークがつきます。この時点ではまだ削除されていません。削除したいすべての画像に🗑マークをつけてください。

4

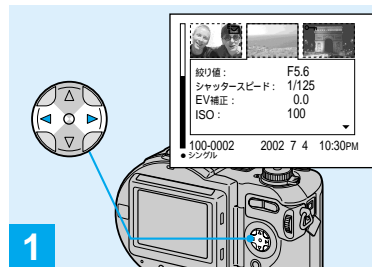
➡ **MENUボタンを押し、コントロールボタンの◀/▶で［実行］を選び、中央の●を押す**

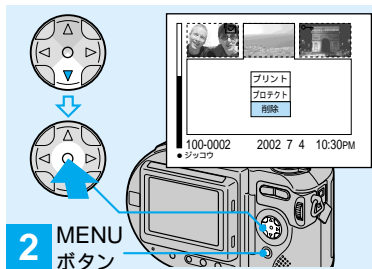
「アクセス中」という表示が消えると、画像が削除されます。

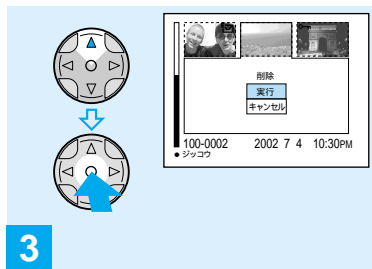
削除を中止するには

コントロールボタンの◀で［終了］を選び、中央の●を押してください。

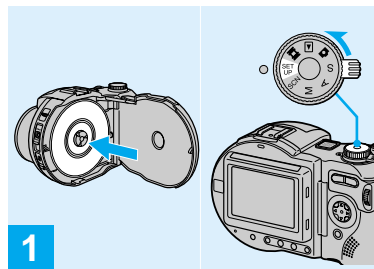
- 選択を取り消すには、もう一度取り消したい画像を選んで中央の●を押してください。

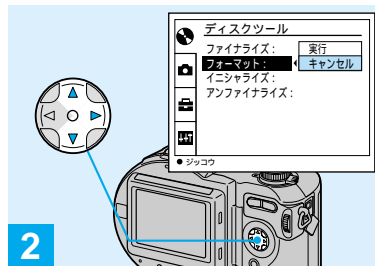
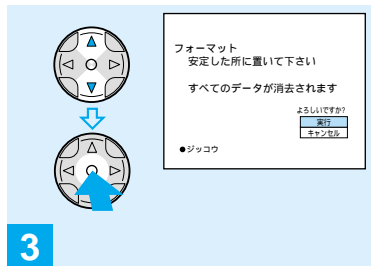
インデックス（3枚表示）画面で削除する

1

➡ **インデックス（3枚表示）画面（34ページ）で、コントロールボタンの◀/▶で削除したい画像を中央に表示する**

➡ MENUボタンを押し、コントロールボタンの▼で［削除］を選び、中央の●を押す

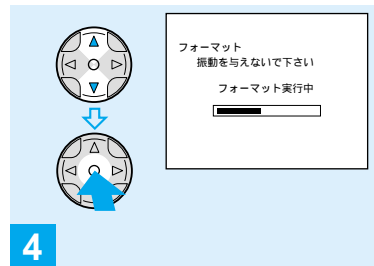
この時点ではまだ削除されていません。

➡ コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の●を押す

「アクセス中」という表示が消えると、中央の画像が削除されます。

削除を中止するには
コントロールボタンの▼で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

➡ フォーマットしたいCD-RWを入れ、モードダイヤルを「SET UP」にしてから、電源を入れる

- 「フォーマット」とは、記録した画像をすべて消去するときや、本機以外でフォーマットしたCD-RWをお使いになるときにする作業のことです。**フォーマットすると、CD-RW内の画像データはすべて消去されますので、ご注意ください。フォーマットすると、そのCD-RWは自動的にイニシャライズされます。**

➡ コントロールボタンの▲/▼で［💿］（ディスクツール）を選び▶を押し、▲/▼で［フォーマット］を選び、▶を押す

➡ コントロールボタンの▲/▼で［実行］を選び、中央の●を押す

「フォーマット 安定した所に置いて下さい」と表示されます。

フォーマットを中止するには
コントロールボタンの▲/▼で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

➡ もう一度コントロールボタンの▲/▼で［実行］を選び、中央の●を押す

表示が消えると、フォーマットが完了します。

- 必ずバッテリーが満充電された状態か、ACパワーアダプターから電源をとっている状態でフォーマットしてください。
- CD-Rはフォーマットできません。

- 本機以外でフォーマットしても、そのCD-RWは本機で使えません。本機で再度フォーマットしてください。

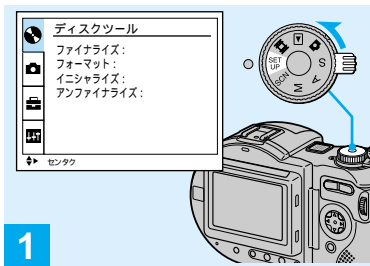
- フォーマットには約7分かかります。
- 1枚のCD-RWに対して、フォーマットは約300回が限度です。
- フォーマットすると、プロテクトをかけている画像も消去されます。

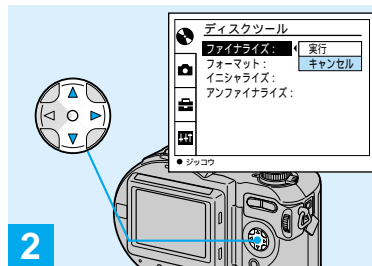
パソコンで画像を見るための準備

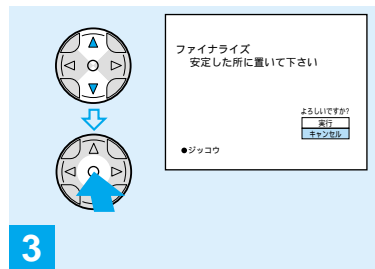
ディスクをファイナライズする

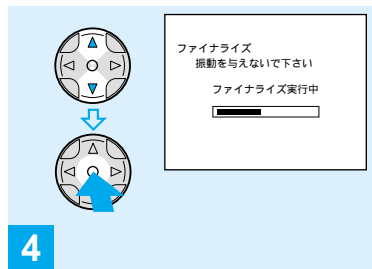
本機で記録したディスクをパソコンのディスクドライブで再生するときは、SET UPの［ファイナライズ］を実行してください。ファイナライズを実行していないディスクは、ディスクドライブで認識することができません。

ファイナライズについて

- 本機で記録した画像データを、ディスクドライブで読めるようにする操作がファイナライズです。
- 一度ファイナライズを実行したディスクでも、再びイニシャライズすれば、画像の追加書き込みができます。本機でファイナライズした場合は、自動的にイニシャライズが行われます。追加した画像をディスクドライブで再生するには、もう一度ファイナライズする必要があります。
  ただし、ファイナライズを実行するたびにディスク容量が約13MBずつ減るので、まとめてファイナライズすることをおすすめします。
- ディスクをファイナライズしないで本機から取り出しても、後でファイナライズすることができます。
- ファイナライズされたディスクをディスクドライブで見る場合は、ディスクドライブがマルチリード（MultiRead）に対応している必要があります。

➡ **モードダイヤルを「SET UP」にして、電源を入れる**

SET UP画面が表示されます。

➡ **コントロールボタンの▲/▼で［ディスクアイコン］（ディスクツール）を選び▶を押し、▲/▼で［ファイナライズ］を選び、▶を押す**

静止画をパソコンに取り込む

➡ コントロールボタンの▲/▼で［実行］を選び、中央の●を押す

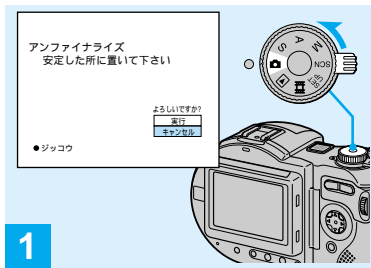
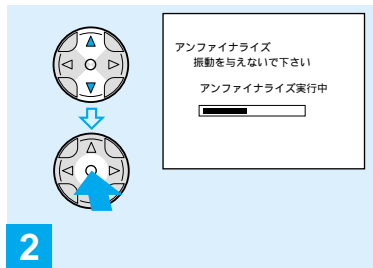
「ファイナライズ　安定した所に置いてください」と表示されます。

➡ もう一度コントロールボタンの▲/▼で［実行］を選び、中央の●を押す

ディスクがファイナライズされ、ディスク残量表示が◐から◐に、または◐RWから◐RWに変わります。
ファイナライズの実行は、約1分かかります。実行中は本機に振動を与えないでください。

ファイナライズを中止するには

手順3または4で、コントロールボタンの▲/▼で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。ファイナライズが始まると、中止することはできません。

- 必ずバッテリーが満充電された状態か、ACパワーアダプターから電源をとっている状態でファイナライズしてください。

ファイナライズを取り消す—アンファイナライズ（CD-RWのみ）

➡ モードダイヤルを「📷」にする

「アンファイナライズ　安定した所に置いてください」と表示されます。

- モードダイヤルを「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」、「🎞」の位置にしても操作できます。
- CD-RWを使用しているときは、直前に実行したファイナライズを取り消すことができます（アンファイナライズ）。ファイナライズを取り消すと、ファイナライズの実行で使用したディスク容量を元に戻すことができます。

* MVC-CD400のみ

➡ コントロールボタンの▲/▼で[実行]を選び、中央の●を押す

ディスクがアンファイナライズされ、ディスク残量表示がから に変わります。

アンファイナライズの実行は、約1分かかります。実行中は本機に振動を与えないでください。

アンファイナライズを中止するには

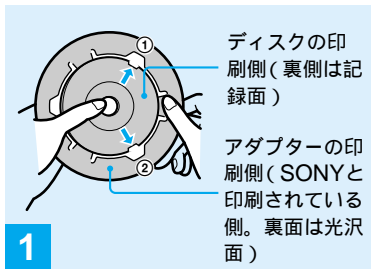
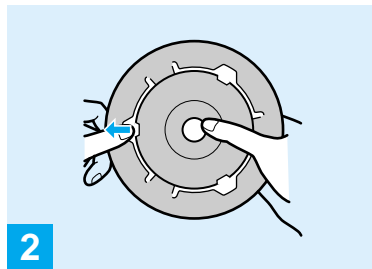
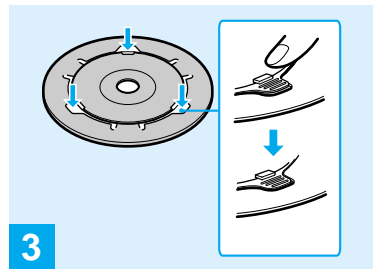
コントロールボタンの▲/▼で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。アンファイナライズを中止した場合、そのまま画像を続けて記録することができます。

一度中止した後にアンファイナライズするには

モードダイヤルを「SET UP」にして、［💿］（ディスクツール）の［アンファイナライズ］を実行してください（**別冊応用編➡** 69ページ）。

- ファイナライズ実行後、画像を編集したり新しい画像を記録したりすると、アンファイナライズは実行できません。

静止画をパソコンに取り込む

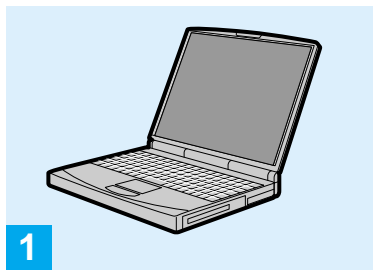
付属の8cm CDアダプターについて

➡ ①、②の順でアダプターの2つのツメにディスクを差し込む

➡ 3つめのツメを外側に引いて、ディスクをはめる

➡ ディスクがツメの溝に正しくはまってツメがすべて平らになっていることと、ディスクがアダプターから浮いていないことを確認する

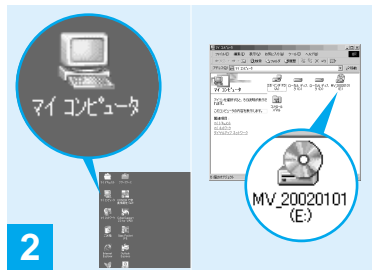
ディスクドライブが8cm CDに対応していないときには、付属の8cm CDアダプターを使用してください。

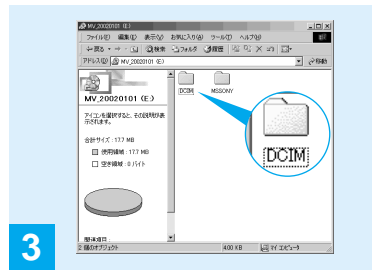
- ドライブによっては付属の8cm CDアダプターがご使用になれない場合があります。ドライブの取扱説明書をご覧ください。
- 低速回転（8倍速以下）でご使用ください。

- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、高温の場所へは放置しないでください。
- このアダプターはマビカディスク専用です。他の8cm CD-R/CD-RWにはご使用になれません。

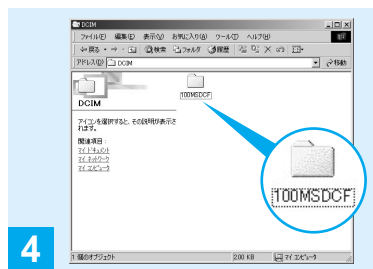
- ツメが浮いていると動作しなかったり、異音が発生したりすることがあります。

画像をパソコンのディスクドライブで見る 98 2000 XP 98SE Me

1 ➡ パソコンを起動し、ファイナライズしたディスクをパソコンのディスクドライブに入れる

- CD-RWの画像をディスクドライブで見る場合は、ドライブがマルチリード（MultiRead）に対応している必要があります。お手持ちのドライブがマルチリードに対応しているかどうかはドライブのメーカーにお問い合わせください。
- ここではMicrosoft Windows Meの画面を使って説明します。OSの種類によって、画面表示や操作方法が異なることがあります。
- Windowsでの動画再生時には、Windows Media Playerなどの動画再生ソフトがインストールされていることが必要です。

2 ➡［マイコンピュータ］を開き、ディスクを入れたドライブ（例：[MV_20020101 (E:)]）をダブルクリックする

- 「PIXELA ImageMixer」をつかってパソコン上で画像を見ることができます。詳しくはアプリケーションソフトのヘルプをご覧ください。

3 ➡［DCIM］をダブルクリックする

「DCIM」フォルダの内容が表示されます。

- 画像が入っているフォルダは、画像の種類によって異なります。詳しくは「画像ファイルの保存先とファイル名」（47ページ）をご覧ください。

➡ **[100MSDCF] をダブルクリックする**

「100MSDCF」フォルダの内容が表示されます。

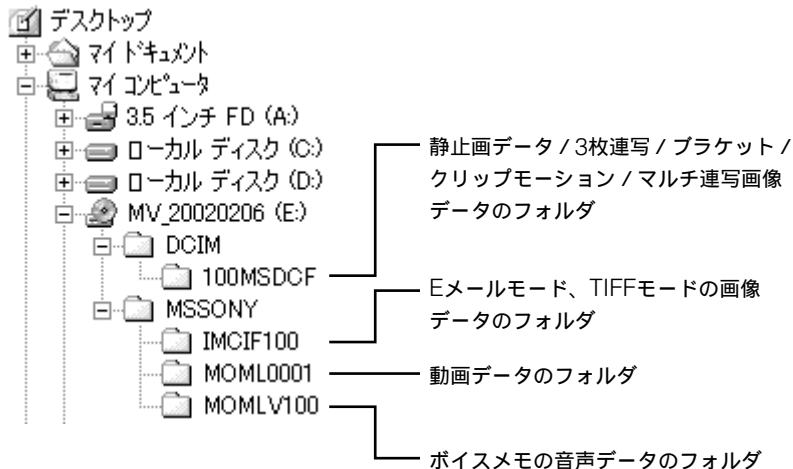
- 「100MSDCF」フォルダの中に、本機で撮影した画像がファイルとして入っています。

➡ **再生したいファイルをダブルクリックする**

- パソコンのハードディスクにコピーしてから再生することをおすすめします。ディスクから直接再生すると、画像／音声がとぎれることがあります。
- WindowsではUSB接続でも画像を見ることができます（49ページ）。
- Mac OS X以外のMacintoshではUSB接続で画像を見ることができません。

画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、撮影モードごとにディスク内のフォルダにまとめられています。

Windows Meで見たときの例

次ページの表について

ファイル名の意味は以下の通りです。□□□□には0001から9999までの数字が入ります。

下記のファイルの数字部分は同じになります。

– Eメールモードで撮影した小サイズ画像ファイルとその画像ファイル
– TIFFモードで撮影した非圧縮画像ファイルとその画像ファイル
– ボイスメモモードで撮影した音声ファイルとその画像ファイル
– クリップモーションで撮影した画像ファイルとそのインデックス画像ファイル

このフォルダの中にある	ファイル名	ファイルの内容
100MSDCF	DSC0□□□□.JPG	• 通常撮影した静止画ファイル • 以下のモードで同時に撮影した静止画ファイル －Eメールモード（**別冊応用編➡** 24ページ） －TIFFモード（**別冊応用編➡** 23ページ） －ボイスメモモード（**別冊応用編➡** 25ページ） －連写モード（**別冊応用編➡** 23ページ） －ブラケットモード（**別冊応用編➡** 18ページ） －マルチ連写モード（**別冊応用編➡** 21ページ）
	CLP0□□□□.GIF	• ノーマルモードで撮影したクリップモーションファイル（**別冊応用編➡** 20ページ）
	CLP0□□□□.THM	• ノーマルモードで撮影したクリップモーションファイルのインデックス画像ファイル
	MBL0□□□□.GIF	• モバイルモードで撮影したクリップモーションファイル（**別冊応用編➡** 20ページ）
	MBL0□□□□.THM	• モバイルモードで撮影したクリップモーションファイルのインデックス画像ファイル
IMCIF100	DSC0□□□□.JPG	• Eメールモードで撮影した小サイズ画像ファイル（**別冊応用編➡** 24ページ）
	DSC0□□□□.TIF	• TIFFモードで撮影した非圧縮画像ファイル（**別冊応用編➡** 23ページ）
MOML0001	MOV0□□□□.MPG	• 通常撮影した動画ファイル（**別冊応用編➡** 37ページ）
MOMLV100	DSC0□□□□.MPG	• ボイスメモモードで撮影した音声ファイル（**別冊応用編➡** 25ページ）

• PTP接続のときは、画像のファイル番号の上4桁を、ユーザーが自由につけることができます。

画像をパソコンに取り込むまで

右記のような流れで、本機で撮影した画像をパソコンに取り込みます。

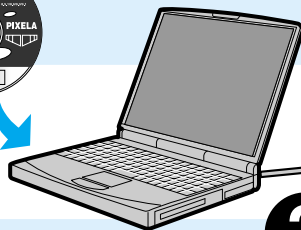
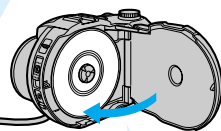
お使いのOSでの手順は

OSによって手順❶が不要な場合があります。

OS	手順
Windows 98/98SE/2000/Me	手順❶～❺すべて（51、55、56、57、62ページ）
Windows XP	手順❷～❺（55、56、59、62ページ）
Mac OS X (v10.0/v10.1)	63ページ

PIXELA PTP Managerを使用しているときは、動画、静止画を同じように扱うことができます。

❶ **PIXELA PTP Managerをインストールする***
(51ページ)

* 2回目以降、画像を取り込むときは不要です。

❷ **本機とパソコンを準備する**
(55ページ)

❸ **USBケーブルで接続する** (56ページ)

❹ **画像ファイルをパソコンにコピーする**
(57ページ)

❺ **パソコンで画像を見る**
(62ページ)

パソコンの推奨使用環境

■ Windowsパソコン環境

OS：Microsoft Windows 98/
Windows 98SE/
Windows 2000
Professional/
Windows Millennium
Edition/Windows XP Home
Edition/Windows XP
Professional

工場出荷時にインストールされていることが必要です。
上記のOSでもアップグレードされた場合は動作保証いたしません。

CPU：MMX Pentium 200 MHz
以上

- Windows XP以外のOSをお使いの場合は、PTP Managerがインストールされていることが必要です。

USB端子：標準装備であること

ディスプレイ：800×600ドット以上
High Color（16bit
カラー、65 000色）
以上

■ Macintosh環境

OS：Mac OS X (v10.0/v10.1)
工場出荷時にインストールされていることが必要です。

USB端子：標準装備であること

ディスプレイ：800×600ドット以上
32 000色モード以上

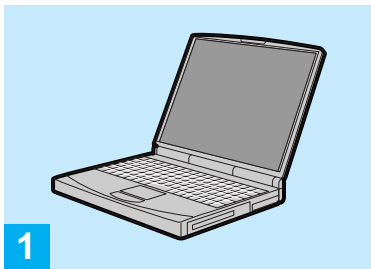
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

パソコンとの通信について（Windowsのみ）

パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

USB端子がないパソコンをお使いの場合は

ファイナライズしたディスクをディスクドライブに入れて画像を取り込めます。

❶ PIXELA PTP Managerをインストールする

➡ パソコンの電源を入れる

この時点では、本機をパソコンに接続しないでください。

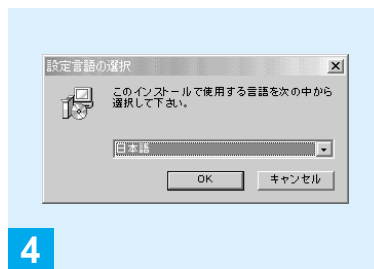
- ここでは、Microsoft Windows Meの画面を使って説明します。OSの種類によって、画面表示や操作方法が異なることがあります。
- **パソコンを使用中の場合には、使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。**
- Windows 2000をお使いのかたは、administrators（管理者権限）でログオンしてください。

➡ 付属のCD-ROMを、パソコンのディスクドライブにセットする

しばらくすると、タイトル画面が表示されます。
タイトル画面が表示されないときは、デスクトップ画面上の（マイ コンピュータ）→［ImageMixer］の順にダブルクリックしてください。

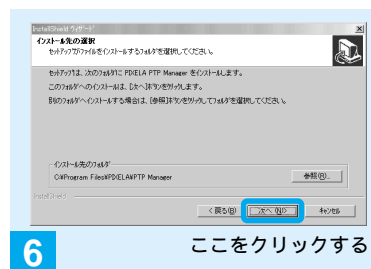
- ディスプレイの設定を800×600ドット以上、High Color（16bitカラー、65 000色）以上にしてください。800×600ドット未満、256色以下ではインストールのタイトル画面が表示されません。

➡「PIXELA PTP Manager USB Driver」の部分に（ポインタ）を動かし、クリックする

「設定言語の選択」画面が表示されます。

➡ [▼] をクリックして「日本語」を選び、[OK] をクリックする

「PIXELA PTP Manager用のInstallShieldウィザードへようこそ」画面が表示されます。

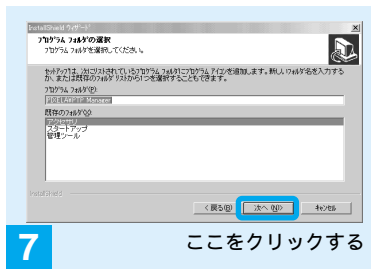
➡ [次へ] をクリックする

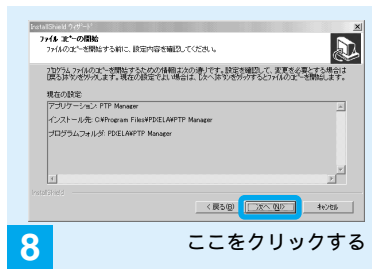
「インストール先の選択」画面が表示されます。

➡ インストール先を選んで [次へ] をクリックする

「プログラムフォルダの選択」画面が表示されます。

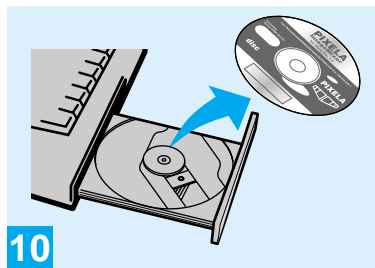
7 ここをクリックする

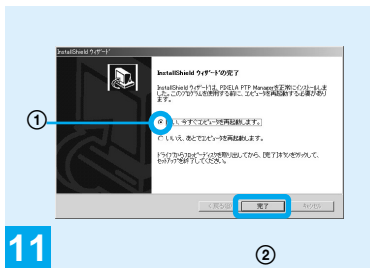
8 ここをクリックする

9 ここをクリックする

➡ プログラムフォルダを選んで［次へ］をクリックする

「ファイルコピーの開始」画面が表示されます。

➡ 設定を確認して、［次へ］をクリックする

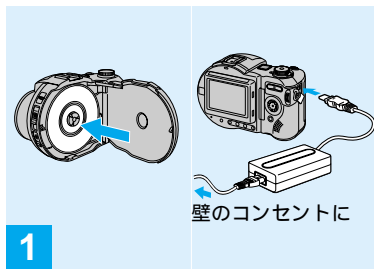
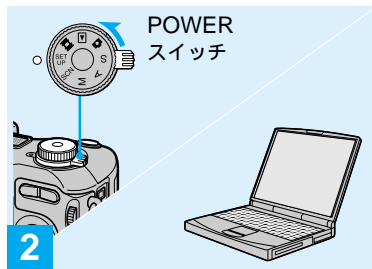
PIXELA PTP Managerのインストールが始まります。
インストールが終わると、「InstallShieldウィザードの完了」画面が表示されます。

➡ ［完了］をクリックする

10

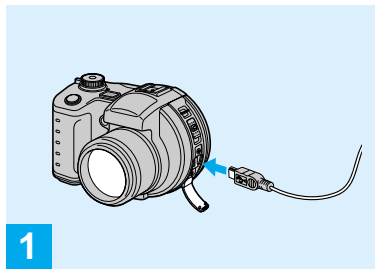
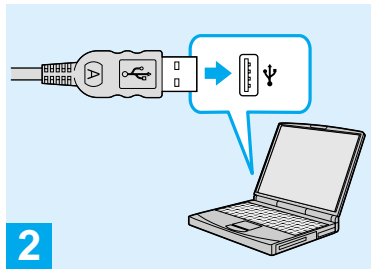
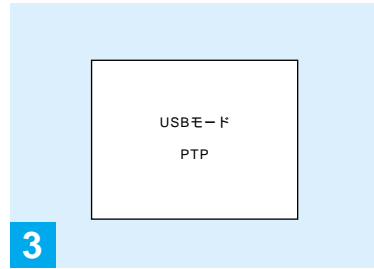
➡ **パソコンからCD-ROMを取り出す**

11

➡ **「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」の○をクリックして◉にし、［完了］をクリックする**

パソコンの電源が一度切れ、すぐに入ります（再起動）。再起動後に、本機とパソコンでUSB接続ができるようになります。

❷ 本機とパソコンを準備する 98 98SE 2000 Me XP

➡ **本機に画像を記録したディスクを入れてから、本機とACパワーアダプターをつなぎ、壁のコンセントにつなぐ**

➡ **本機とパソコンの電源を入れる**

• ディスクについては、18ページをご覧ください。
• ACパワーアダプターについては14ページをご覧ください。

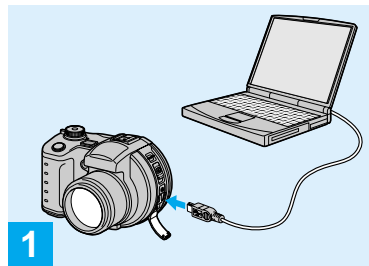
❸ USBケーブルで接続する 98 98SE 2000 Me XP

➡ **本機の端子カバーを開け、付属のUSBケーブルをUSB端子につなぐ**

➡ **USBケーブルをパソコンのUSB端子につなぐ**

本機の液晶画面に「USBモード PTP」と表示されます。
初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。

パソコンからUSBケーブルを抜くときや、USB接続中の本機からディスクを取り出すときは

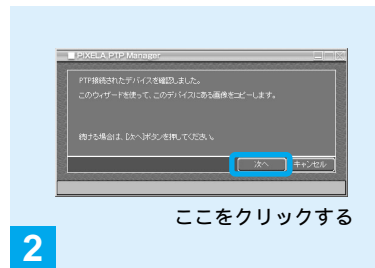
Windows98／98SE／2000／Meをお使いの場合は

1 PIXELA PTP Managerが開いているときはキャンセルなどで閉じる。

2 パソコンのUSBケーブルを抜く、またはディスクを取り出す。

1

➡ USBケーブルでPCに接続する

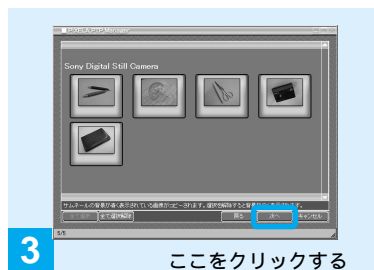
ウィザードの開始メッセージが表示されます。
ディスクからの画像の読み込みに、若干時間がかかることがあります。
読み込みの進行状況は、本機の画面表示で確認することができます。
読み込みが完了すると、パソコン上に手順**2**の画面が表示されます。

• Windows XPをお使いの方は、59～60ページをご覧ください。

ここをクリックする

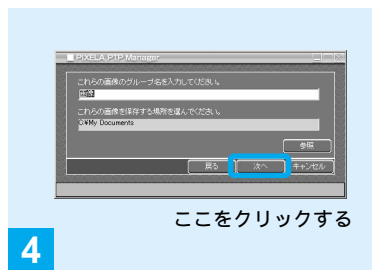
2

➡ ［次へ］をクリックする

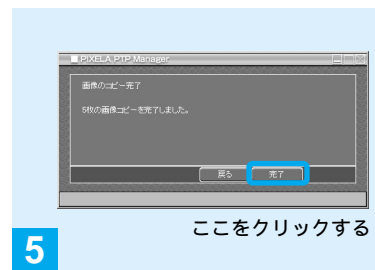
コピーする画像の選択が表示されます。

3

➡ コピーする画像を選択して［次へ］をクリックする

コピー先、グループ名の設定が表示されます。

4

➡ グループ名とコピー先のフォルダを選択して［次へ］をクリックする

実際のコピーを開始します。コピーが終わるとコピー終了のメッセージが表示されます。

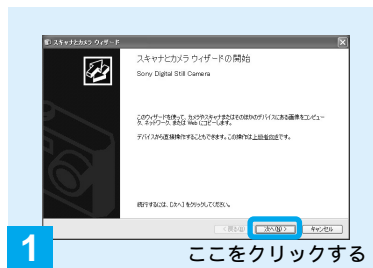
5

➡「完了」をクリックする

エクスプローラが立ち上がってコピー先のフォルダが開きます。

• ここでは、「マイドキュメント」というフォルダに画像をコピーします。

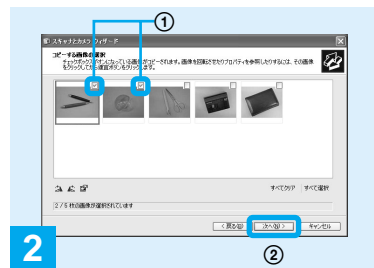
このフォルダ内にコピーされました。

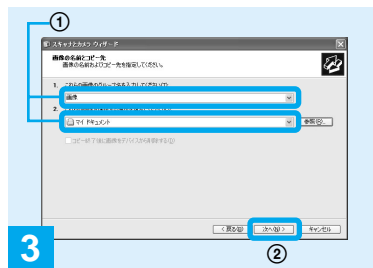
❹ 画像ファイルをパソコンにコピーする（Windows XPをお使いの場合）XP

1

➡ ［次へ］をクリックする

本機のディスクに記録されている画像が表示されます。
ディスクからの画像の読み込みに、若干時間がかかることがあります。
読み込みの進行状況は、本機の画面表示で確認することができます。

- 56ページの手順を行うと、パソコンの画面にコピーウィザードが表示されます。

2

➡ パソコンにコピーしない画像の ☑ をクリックして □ にし、［次へ］をクリックする

「画像の名前とコピー先」画面が表示されます。

→ 画像のグループ名とコピー先を指定し、[次へ] をクリックする

→ [作業を終了する] を選び、[次へ] をクリックする

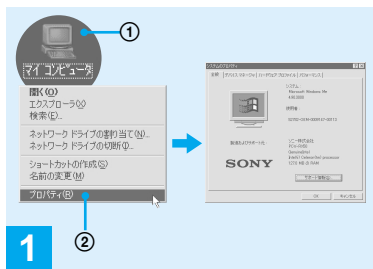
「スキャナとカメラのウィザードの完了」画面が表示されます。

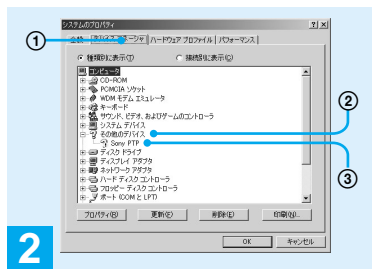
→ [完了] をクリックする

ウィザード画面が閉じます。

• ここでは、「マイドキュメント」というフォルダに画像をコピーします。

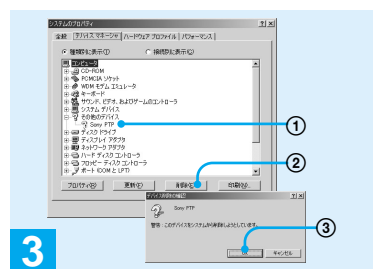
• 続けて画像をコピーしたい場合は、USBケーブルを一度抜き差しして、手順❶から行ってください。

PIXELA PTP Managerが起動しないときは

➡ ［マイ コンピュータ］を右クリックし、［プロパティ］をクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

➡ 別のデバイスが表示されていないか確認する

① ［デバイスマネージャ］をクリックする。

② ［その他のデバイス］をダブルクリックする。

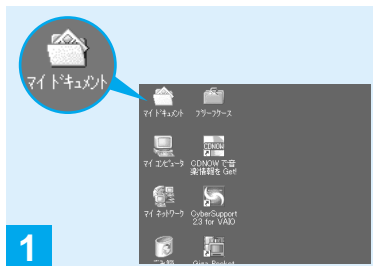
③ “ ”マークの付いた「Sony PTP」がないか確認する。

➡ 表示されていたら削除する

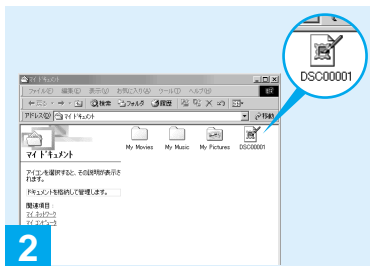
① 「Sony PTP」をクリックする。

② ［削除］をクリックする。
「デバイス削除の確認」画面が表示されます。

③ ［OK］をクリックする。
デバイスが削除されます。

デバイスを削除したあと、付属のCD-ROMのPIXELA PTP Managerをインストールし直してください（51ページ）。

❺ パソコンで画像を見る

➡ **デスクトップ画面上の［マイドキュメント］をダブルクリックする**

「マイドキュメント」フォルダの内容が表示されます。

➡ **見たい画像ファイルをダブルクリックする**

画像が開きます。

- 58、60ページで、「マイドキュメント」フォルダに画像をコピーした場合の説明です。
- Windows XPをお使いの場合は、［スタート］→［マイドキュメント］をクリックしてください。
- 「PIXELA ImageMixer」をつかってパソコン上で画像を見ることができます。詳しくはアプリケーションソフトのヘルプをご覧ください。

Macintoshをお使いの場合

USB接続で見る（Mac OS Xのみ）

Mac OS Xをお使いの方のみUSB接続で画像を見ることができます。

❶本機とパソコンを準備する

詳しくは、55ページをご覧ください。

❷USBケーブルで接続する

詳しくは、56ページをご覧ください。

パソコンからUSBケーブルを抜くときや、USB接続中の本機からディスクを取り出すときは、パソコンの電源を切ってから行ってください。

❸Image Captureでダウンロードする

自動的にImage Captureが起動します。画面の指示に従ってダウンロードしてください。

- Mac OS X（v10.1）をお使いの場合は、動画ファイルが転送できない場合があります。

電話のおかけ間違いにご注意ください。

ソニーではデジタルスチルカメラをお買い上げの皆様へのサポートをより充実させていくため、お客様に「カスタマーご登録」をお勧めしています。詳しくは同梱の「カスタマーご登録のお勧め」をご覧ください。

■ **カスタマーご登録およびご登録内容の変更はこちらのホームページから：**

http://www.sony.co.jp/di-regi/

カスタマーご登録に関するお問い合わせ：**ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク**

電話：03-5977-7255

受付時間：**月～金曜日　午前10時～午後6時**（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■ **デジタルイメージングカスタマーサポート**

デジタルスチルカメラとパソコンの接続方法や、最新サポート情報をご案内するホームページです。

http://www.sony.co.jp/support-di/

■ **テクニカルインフォメーションセンター**

ご使用上での不明な点や技術的なご質問のご相談、および修理受付の窓口です。

製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合は、「テクニカルインフォメーションセンター」までご連絡ください。修理に関するご案内をさせていただきます。また、修理が必要な場合は、お客様のお宅まで指定宅配便で取りにおうかがいしますので、まずお電話ください。

電話：0564-62-4979

受付時間：**月～金曜日　午前9時～午後5時**（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お電話の前に以下の内容をご用意ください。

① お客様のデジタルイメージングカスタマーID
（既にカスタマーご登録されたお客様にはカスタマーIDが発行されています。）

② 本機の型名（本機底面をご覧ください。）

③ 本機の製造番号（本機底面をご覧ください。）

■ **ピクセラユーザーサポートセンター**

ImageMixer for Sony, PTP Managerに関するお問い合わせ窓口です。

電話：072-224-0181

受付時間：**月～日曜日　午前9時～午後5時**（ただし、年末、年始、祝日を除く）

http://www.imagemixer.com

この説明書は再生紙を使用しています。

Printed in Japan

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

サイバーショットオフィシャルWEBサイト

http://www.sony.co.jp/cyber-shot/

サイバーショット、マビカの最新情報を掲載。

撮影方法やアクセサリー情報、パソコン接続に関する情報を掲載しています。